

25年10月分

製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 9月20日～ 10月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/10月	11月	12月
入荷動向	国産材製材品	△ 12.5	12.5	0.0
	外材製材品	25.0	12.5	6.3
	その他	0.0	0.0	0.0
販売動向	国産材製材品	43.8	43.8	18.8
	外材製材品	6.3	12.5	0.0
	その他	50.0	50.0	50.0
在庫動向	国産材製材品	△ 37.5	△ 18.8	△ 6.3
	外材製材品	18.8	12.5	6.3
	その他	0.0	0.0	0.0

入荷は国産材製材品は10月の減少から11月の増加を経て12月には横ばいに、外材製材品はプラス基調で推移。

販売は、国産材製材品はプラス基調で推移、外材製材品は10、11月のプラスから12月にはゼロに。

在庫は、国産材製材品はマイナス基調で推移、外材製材品はプラス基調で推移。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		25/10月	11月	12月
スギ	柱角 KD10.5×3	50.0	37.5	18.8
	柱角 KD12×3	43.8	31.3	18.8
	通し柱 12×6	35.7	14.3	14.3
	桁角	6.3	12.5	12.5
	母屋角	31.3	31.3	25.0
	タルキ	12.5	18.8	6.3
	間柱	37.5	18.8	12.5
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	6.3	6.3	0.0
	平割	6.3	12.5	6.3
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	37.5	31.3	18.8
	柱角 KD12×3	37.5	31.3	18.8
	土台角 10.5×4	50.0	37.5	25.0
	土台角 12×4	43.8	31.3	18.8
	通し柱 12×6	28.6	7.1	7.1
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	8.3	8.3	8.3	
米マツ割物	0.0	0.0	0.0	
北洋エゾマツタルキ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7	
北洋アカマツタルキ	△ 50.0	△ 25.0	△ 25.0	

スギ製材品価格はスギ加工板の横ばいを除き総じて強含み・強保合、ヒノキ製材品は総じて強含み・強保合で推移。

カラマツ土台角は横ばいで推移。

米マツ平角はプラス基調で推移、小割は横ばいで推移。

北洋エゾマツ及びアカマツタルキは弱含みなし弱保合で推移。

モニターからのコメント

(荷動き)・スギ・ヒノキのKD製品でPC工場への直送販売増加により市場内への入荷は減少傾向、販売はまとまった単位での販売は順調、外材は入荷増で販売は苦戦だが一定の需要は確実にあるため横ばい、在庫は国産材は在庫・元落は減少傾向、外材は供給過剰が続いており増加。・ヒノキKD土台、スギKD90が不足。スギ、ヒノキ製品は共によく売れている、外材製品はそれほどの需要は無い。入荷多いがそれ以上に動くため在庫増えず。国産材入荷更に減少傾向、9月の販売は順調、在庫減、元落ち減。・内地材、外材とも入荷に大きな動きは無い。販売は前月に比べると増加の見込み少ない。在庫は横ばい。

(製品価格)スギ柱角(KD)は強含み、スギ桁角、母屋角は一部品薄傾向、スギタルキは東京周辺ではあまり使わないが郊外では多く使うようになってきた、スギ間柱は良好、スギヌキ、平割は供給多く下落傾向。ヒノキ柱角は入荷良好で安定販売、ヒノキ土台角はツガ注入土台からの代替などの使用量増加4m120mm角も品薄感出ている、米マツ割物は入荷良好で一部地域ではスギに変わっているため供給過剰で下落傾向、アカマツタルキは供給過多で価格下落。・集成材だぶついているが、スギ柱、桁、母屋及びタルキは不足気味、特に10.5、12.0通し柱、KD9.0角は不足、スギ間柱よく売れている、スギ加工板は変化なし、スギヌキは90幅の方がよく売れている。ヒノキ柱角は入荷不足、土台角は原木高で採算取れず最も不足。・スギ加工板、小割は原木減で益々入荷減となり販売順調。ヒノキ柱、土台はここに来てもう一段品薄、単価上昇、メーカー高唱えも川下へはまだ浸透せず。ヒノキ通し柱はもともと安定相場。・国産材は入荷減少、外材WWは過剰在庫、米ツガは少ない。販売は9月好調な荷動きで終始、玉不足で苦労することも、国産材在庫は激減。スギ柱、桁はKD良材だけでなくグリーンも品薄、それ以外についても値上げしないと入荷に苦心。ヒノキ製材品についても値上げ要請強くなっている。米マツ製材品は価格横ばい、荷動き堅調。北洋材は横ばい推移。・スギ、ヒノキとも原木不足による供給減で10月は原木価格上昇、製品価格もやや強気、年内は同様の状況と予想、スギ、ヒノキとも構造材の売れ行き良い、在庫も少ない。ヒノキ柱、土台は原木不足により製品価格もやや上昇しているが11月以降原木供給量増えれば価格も落ち着くと予想。・復興の兆し無く在庫増、WW売り逃げし始めた、アカマツも入荷増、駆け込み需要なく売り上げ減少、在庫調整している。スギ製材品はタルキがアカマツの代替で動き始めている以外は、WW集成材、米マツの使用等で動き少ない。ヒノキ製材品もほとんど動きなし、米マツ割物入荷少なくやや上昇、北洋アカマツタルキは在庫増、安値出てきた。・外材はほとんど仕入れ(買取)のため入荷は市場サイドの事情による、プレカット工場は年内フル稼働に近く、外材はメーカー直取引だが内地材の需要が増加、消費税アップ、木材利用ポイント等で地場の需要も増す見込み。KD、AD中心に一部製品の入荷減少し今後品薄となる可能性大。スギ柱はKDのA品は入荷不足で需給バランス悪くなり、入荷製品は上昇気味、1等上、B品に移行するプレカットもある。母屋角は九州各地で丸太高騰、品薄、合板工場、バイオマス工場によるB、C材高値買いのため地元メーカー苦慮、A材も底上げにより単価アップだがグリーン、加工材は大きな単価アップは無いと予想、各プレカット工場とも年内はともかく年明け受注落ち込み予想で不安定。当市場は組合員市場で委託メーカーと協力してきたが、スギAD、KDは別で買い取り含め今後苦慮しそう。ヒノキ柱はもともと需要少なく大きな価格変動ないと予想、土台取丸太高騰、品薄で今後に注意。米マツ製品も需要限定され品薄感なし。・スギ柱は在庫少なく若